別添１

厚生労働科学研究費補助金

循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業

脳卒中後の失語・嚥下障害・てんかん・認知症の実態調査と脳卒中生存者に対するチーム医療の確立を目指した研究

令和６年度　総括研究報告書

研究代表者　猪原匡史

令和７（２０２５）年　５月

別添２

目　　次

Ⅰ．総括研究報告
脳卒中後の失語・嚥下障害・てんかん・認知症の実態調査と脳卒中生存者に対するチーム医療の確立を目指した研究　----------　1
猪原匡史

II．研究成果の刊行に関する一覧表　----------　3

別添３

厚生労働科学研究費補助金（循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業）
総括研究報告書

脳卒中後の失語・嚥下障害・てんかん・認知症の実態調査と脳卒中生存者に対するチーム医療の確立を目指した研究

研究代表者 猪原匡史　国立循環器病研究センター脳神経内科　部長

研究要旨

外見からの判別が困難な脳卒中後遺症の我が国における現状把握を目的として、後方視的にデータを収集し、検討を実施する。その結果、主となる脳卒中後遺症である失語、嚥下障害、てんかん、認知症に関する後遺症の実態や問題点について把握することができ、今後増加することが確実な脳卒中生存者に対する対策や脳卒中後遺症治療の均てん化や健診・保健指導の向上といった厚生労働行政の施策等への活用が期待される。

研究分担者
田中智貴　国立循環器病研究センター
脳神経内科　医長
福間一樹　国立循環器病研究センター
脳神経内科　医長
齊藤　聡　国立循環器病研究センター
脳神経内科　医長
西村邦宏　国立循環器病研究センター
予防医学･疫学情報部　部長
横田千晶　国立循環器病研究センター
脳血管リハビリテーション科
医長
古賀政利　国立循環器病研究センター
脳血管内科　部長
中奥由里子国立循環器病研究センター
予防医学・疫学情報部
研究員
宮井一郎　社会医療法人大道会森之宮病院
・森之宮病院
・神経リハビリテーション研究部
病院長代理・研究部長
大槻美佳　北海道大学・大学院
保健科学研究院・准教授

Ａ．研究目的

外見からの判別が困難な脳卒中後遺症の我が国における現状把握を目的として、後方視的にデータを収集し、検討を実施することで、脳中後遺症である失語、嚥下障害、てんかん、認知症に関する後遺症の実態や問題点について把握し、政策提言に繋げる。

Ｂ．研究方法

《集積したデータを用いた実態調査、リスクモデルの作成》
令和５年に集積した脳卒中後遺症のデータを基に、失語、嚥下障害、脳卒中後てんかん、認知症に関する実態調査をまとめる。また、それらのデータを元にリスク因子の同定やリスクモデルの作成を行う。

《脳卒中後遺症に対する具体的な対策の提案》
上述した実態調査やアンケート結果を基に、脳卒中合併症の具体的な予防策や発症した場合の対応、これら「外見からの判別が困難な」合併症の認知度を高める手法、フォローアップ時に注意すべき事項などへの対策について検討し、提言としてまとめる。

（倫理面への配慮）
本研究は、既存のデータを用いた研究であり、オプトアウトにて行われるが、個別同意を取得する代わりに、研究に関する情報を研究対象者等に通知又は公開し、研究対象者等が容易に知り得る状態に置くことで、研究が実施されることについて研究対象者等が拒否できる機会を保障する。

Ｃ．研究結果

令和 5 年度より収集したデータや調査結果を基に解析を行い、脳卒中後遺症の新たな知見を取得できた。失語に関しては、脳卒中後の機能予後、死亡に独立して影響していることが判明し、令和６年 9 月国際学会にて発表、韓国の Asan Medical Center にも協力を依頼し、双方で同様の結果を得ることができ、現在投稿中である。さらに、失語症例のコミュニケーションツールとしてイラストを用いたボードを作成し、国立循環器病研究センターで実際に運用を開始した。てんかんについては Neurology に脳卒中後てんかんの総説と抗てんかん発作薬の効果に関するメタ解析＋システマティックレビューをそれぞれ出版した。さらに出血性病変が発症のモデルの改善にさらに寄与することを米国の Massachusetts General Hospital とともに解明し、新たな脳卒中後てんかん発症スコア（IsCHEMiA スコア)を作成し、現在投稿している。嚥下障害に関しては、昨年度導入した早期栄養プロトコルに関する導入前後の嚥下障害のアンケート調査を解析し、令和 7 年 3 月に脳卒中学会総会にて発表した。認知症に関しては、脳卒中後 3 カ月での認知機能の増悪に関する因子を調査し、年齢と糖尿病があることが判明した。

脳卒中後遺症への対策の提案については、令和６年９月４日に第３回班会議を行い、各後遺症の知見や課題だけでなく、生活期、維持期や看護からの側面における、課題や解決策についても議論を行い、その結果をもとに政策提言書の作成を開始、令和 7 年 3 月 5 日に第 4 回班会議にて内容の確認を行い、令和 7 年４月に「外見からの判別が困難な脳卒中後遺症の制圧に向けた提言」を完成するこ

とができた。

D．考察

大規模な脳卒中データ、信頼性の担保された各種評価データを国際的に協力することで、脳卒中後遺症の実態調査、リスク評価モデルを作成することができ、信頼性のある成果を出すことができた。さらに、これらのエビデンスは今後、脳卒中後遺症治療の均てん化や健診・保健指導の向上にも結びつくと考えられる。また、今回作成した政策提言を通し、「健康寿命の延伸等を図るための脳卒中、心臓病その他の循環器病に係る対策に関する基本法」に基づき、令和2年10月に閣議決定された循環器病対策推進基本計画に則った施策の推進として、今後増加することが確実な脳卒中生存者に対する対策を講じることが可能であると考えられる。

E．結論

これまで十分に注目されてこなかった「目に見えない脳卒中後遺症」に焦点を当て、その現状把握と新たな課題の抽出、さらには政策提言書の作成を行うことで、脳卒中生存者への課題への取り組みや、新たな研究テーマの創出、均てん化や社会環境の整備へと繋がる成果を得ることができた。

F．健康危険情報

該当なし。

G．研究発表

1. 論文発表

1. Tanaka T, Ihara M, Fukuma K, Mishra NK, Koepp MJ, Guekht A, Ikeda A（責任著者）. Pathophysiology, Diagnosis, Prognosis, and Prevention of Post-Stroke Epilepsy: Clinical and Research Implications. Neurology. 2024,102 (11).
2. Misra S, Wang S, Quinn TJ, Dawson J, Zelano J, Tanaka T, Grotta JC, Khan E, Beriwal N, Funaro MC, Perla S, Dev P, Larsson D, Hussain T, Liebeskind DS, Lin Yasuda CL, Altalib HH, Zaveri HP, Elshahat A, Hitawala G, Wang GY, Kitagawa R, Pathak A, Scalzo F, Ihara M, Sunnerhagen KS, Walters MR, Zhao Y, Jette N, Kasner SE, Kwan P, Mishra NK（共著者）. Antiseizure Medications in Poststroke Seizures: A Systematic Review and Network Meta-Analysis. Neurology, 2025. 104(3), e210231.
3. 田中 智貴, 猪原 匡史（責任著者）. 脳卒中後てんかんと脳血管性認知症、脳神経外科 2024,52(6), p1279-1290
4. 田中 智貴, 猪原 匡史 (責任著者). 脳卒中後てんかんの新展開. 脳神経内科. 2024, 100(2), p138-145.

2. 学会発表

1. Ihara M. Vascular Cognitive impairment. Northern Lights Neuroscience Symposium 2024.9. Finland.
2. Ihara M. Amyloid Load-Modifying Compounds for LMICs. Dementia in LMICs and Brain Ageing 2024.12. Kenya.
3. Tanaka T, et al. Impact of cortical superficial siderosis on seizure control of post-stroke epilepsy. European Stroek Organisation Conference 2024.5. Switzerland
4. Saito S, et al. Efficacy and safety evaluation of type-3 phosphodiesterase inhibitor Cilostazol in mild cognitive impairment. The Alzheimer's Association International Conference 2024.7. US.
5. Tanaka T, et al. Impact of Post-stroke Aphasia on Prognosis after Stroke. Asia Pacific Stroke Conference 2024.7. Australia.
6. 猪原匡史. 認知症と脳卒中.第8回日本脳神経外科認知症学会学術集会.2024.6. 名古屋
7. 猪原匡史. 抗Aβ抗体療法と脳卒中. 第14回日本脳血管・認知症学会総会.2024.7. 岐阜
8. 猪原匡史. 脳卒中後転換の最前線～最新知見に基づいた診断・治療～.第67回日本脳循環代謝学会学術集会.2024.11. 富山
9. 猪原匡史. 脳小血管病と認知症. 第44回日本脳神経外科コングレス総会.2024.5. 名古屋
10. 田中智貴. 脳卒中後てんかん発作コントロールに与える脳表シデローシスの影響. 第57回日本てんかん学会学術集会.2024.9. 福岡
11. 田中智貴. 脳卒中とてんかん. 第57回日本てんかん学会学術集会.2024.9. 福岡
12. 齊藤聡. 脳アミロイド血管症と認知症. 第14回日本脳血管・認知症学会総会.2024.7. 岐阜
13. 齊藤聡. 脳血管と認知症. 第43回日本認知症学会学術集会.2024.11. 福島

H．知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

「外見からの判別が困難な脳卒中後遺症の制圧に向けた提言」政策提言書　2025.4

別添５

研究成果の刊行に関する一覧表

書籍

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の編集者名	書　籍　名	出版社名	出版地	出版年	ページ
Hirata Y, Noda T, Miyai I	Asia-Pacific region: Japan.	Johnson MJ,Mendonca RJ	Rehabilitation robots for neurorehabilitation in high-, low-, middle-income countries. Current practice, barrier	Academic press	London, UK	2024	pp167-178
大槻美佳	失語および関連言語症状	（編）池田学	症候から見極める認知症	新興医学出版社	東京	2024	
大槻美佳	ことばと脳	編：辻幸夫、菅井三実、	＜ことばの認知科学＞ことばと身	朝倉書店	東京	2024	82-100
大槻美佳	一過性全健忘		今日の診断指針第9版	医学書院	東京	2025	5040505

雑誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Nishioka S, Takayama M, Okamoto T, Miyai I	Implementation of nutritional screening tools, nutritional assessment tools, and diagnostic criteria for malnutrition in convalescent rehabilitation wards: A nationwide survey	Clinical Nutrition ESPEN	62	102-107	2024
Tsuda A, Manalo E, Miyai I, Noda T	Efficient integration of personal factors into the international classification of functioning, disability, and health (ICF): the importance of emotional and motivational aspects in goal pursuit	Front. Rehabil. Sci.	5	1450157	2024

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Yamasaki H, An Q, Takahashi K, Fujii T, Yang N, Itkonen M, Yokoyama M, Alnajjar F, Otomune H, Hattori N, Miyai I, Shimoda S	Evaluating the impact of therapeutic handling on sit-to-stand movements post-stroke: Kinematic smoothness as a monitoring metric for recovery	Journal of Bodywork & Movement Therapies	42	620-628	2025
Yukiko Kinoshita, Masahiro Hatakeyama, Mika Otsuki, Takanobu Ishiguro, Etsuji Saji, Masato Kanazawa, Osamu Onoder	Cerebellar compensation: a case of aphasia due to cerebellar hemorrhage.	Journal of Neurology	271	3639-364	2024
大槻美佳	21 世紀の失語症学 ：明らかになったこと、なっていないこと.	認知神経科学	26(1)	15-21	2024
大槻美佳	発語失行	Journal of Clinical Rehabilitation	33(3)	218-224	2024
赤池瞬, 大槻美佳	話さない・話せないに関する精神・神経疾患失語の評価法	臨床精神医学	53(6)	697-706	2024
大槻美佳	言語のアルゴリズム	神経心理学	40(4)	248-258	2024
西山千香子, 亀井編, 川村瞳, 大槻美佳	Mini Linguistic State Examination日本語版の作成	認知神経科学	26(1)	9014	2024
Tanaka T, Ihara M, Fukuma K, Mishra NK, Koepp MJ, Guekht A, Ikeda A.	Pathophysiology, Diagnosis, Prognosis, and Prevention of Poststroke Epilepsy: Clinical and Research Implications	Neurology	102(11)	e209450	2024

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Misra S, Wang S, Quinn TJ, Dawson J, Zelano J, Tanaka T, Grotta JC, Khan E, Beriwal N, Funaro MC, Perla S, Dev P, Larsson D, Hussain T, Liebeskind DS, Lin Yasuda CL, Altalib HH, Zaveri HP, Elshahat A, Hitawala G, Wang GY, Kitagawa R, Pathak A, Scalzo F, Ihara M, Sunnerhagen KS, Walters MR, Zhao Y, Jette N, Kasner SE, Kwan P, Mishra NK.	Antiseizure Medications in Poststroke Seizures: A Systematic Review and Network Meta-Analysis.	Neurology	104(3)	e210231	2025
田中智貴, 猪原匡史	脳卒中後てんかんと脳血管性認知症	脳神経外科	52(6)	p1279-1290	2024
Folloso MC, Villaraza SG, Yi-Wen L, Pek-Lan K, Tanaka T, Hilal S, Venketasubamanian N, Chen C.	The AHA/ASA and DSM-V diagnostic criteria for vascular cognitive impairment identify cases with predominant vascular pathology	Int J Stroke	19(8)	p925-934	2024
Tanaka T, Bhaskar S, Chen C.	Role of Cardiac Biomarkers in Cognition	Vas-Cog J	10	p5-10	2024
田中智貴, 猪原匡史	脳卒中後てんかんの新展開	脳神経内科	100(2)	p138-145	2024
田中智貴	患者背景を考慮したてんかん治療の実際 脳卒中後てんかん患者の治療の実際 PROPOSE研究から得られた知見	クリニシアン	71(2)	p150-156	2024

令和７年　５月　２０日

厚生労働大臣
~~（国立医薬品食品衛生研究所長）~~ 殿
~~（国立保健医療科学院長）~~

機関名　国立研究開発法人
国立循環器病研究センター
所属研究機関長　職　名　理事長

氏　名　大津　欣也

次の職員の（令和）６年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

１．研究事業名　循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業

２．研究課題名　脳卒中後の失語・嚥下障害・てんかん・認知症の実態調査と脳卒中生存者に対するチーム医療の確立を目指した研究

３．研究者名　（所属部署・職名）　脳神経内科　　部長

（氏名・フリガナ）　猪原　匡史　（イハラ　マサフミ）

４．倫理審査の状況

	該当性の有無	左記で該当がある場合のみ記入（※1）		
	有　無	審査済み	審査した機関	未審査（※2）
人を対象とする生命科学･医学系研究に関する倫理指針（※3）	■　□	■	国立循環器病研究センター	□
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	□　■	□		□
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	□　■	□		□
その他、該当する倫理指針があれば記入すること（指針の名称：　　）	□　■	□		□

（※1）当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他（特記事項）

（※2）未審査に場合は、その理由を記載すること。
（※3）廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

５．厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 ■　未受講 □

６．利益相反の管理

当研究機関におけるＣＯＩの管理に関する規定の策定	有 ■　無 □（無の場合はその理由：　　）
当研究機関におけるＣＯＩ委員会設置の有無	有 ■　無 □（無の場合は委託先機関：　　）
当研究に係るＣＯＩについての報告・審査の有無	有 ■　無 □（無の場合はその理由：　　）
当研究に係るＣＯＩについての指導・管理の有無	有 □　無 ■（有の場合はその内容：　　）

（留意事項）　・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

令和７年　５月　２０日

厚生労働大臣
~~（国立医薬品食品衛生研究所長）~~ 殿
~~（国立保健医療科学院長）~~

機関名　国立研究開発法人
国立循環器病研究センター
所属研究機関長　職　名　理事長

氏　名　大津　欣也

次の職員の（令和）６年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

１．研究事業名　循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業

２．研究課題名　脳卒中後の失語・嚥下障害・てんかん・認知症の実態調査と脳卒中生存者に対するチーム医療の確立を目指した研究

３．研究者名　（所属部署・職名）　脳神経内科　　医長

（氏名・フリガナ）　田中　智貴　（タナカ　トモタカ）

４．倫理審査の状況

	該当性の有無	左記で該当がある場合のみ記入（※1）		
	有　無	審査済み	審査した機関	未審査（※2）
人を対象とする生命科学･医学系研究に関する倫理指針（※3）	■　□	■	国立循環器病研究センター	□
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	□　■	□		□
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	□　■	□		□
その他、該当する倫理指針があれば記入すること（指針の名称：　　）	□　■	□		□

（※1）当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他（特記事項）

（※2）未審査に場合は、その理由を記載すること。
（※3）廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

５．厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 ■　未受講 □

６．利益相反の管理

当研究機関におけるＣＯＩの管理に関する規定の策定	有 ■　無 □（無の場合はその理由：　　）
当研究機関におけるＣＯＩ委員会設置の有無	有 ■　無 □（無の場合は委託先機関：　　）
当研究に係るＣＯＩについての報告・審査の有無	有 ■　無 □（無の場合はその理由：　　）
当研究に係るＣＯＩについての指導・管理の有無	有 □　無 ■（有の場合はその内容：　　）

（留意事項）　・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

令和７年　５月　２０日

厚生労働大臣
~~（国立医薬品食品衛生研究所長）~~ 殿
~~（国立保健医療科学院長）~~

機関名　国立研究開発法人
国立循環器病研究センター
所属研究機関長　職　名　理事長

氏　名　大津　欣也

次の職員の（令和）６年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

１．研究事業名　循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業

２．研究課題名　脳卒中後の失語・嚥下障害・てんかん・認知症の実態調査と脳卒中生存者に対するチーム医療の確立を目指した研究

３．研究者名　（所属部署・職名）　脳神経内科　　医師

（氏名・フリガナ）　福間　一樹　（フクマ　カズキ）

４．倫理審査の状況

	該当性の有無	左記で該当がある場合のみ記入（※1）		
	有　無	審査済み	審査した機関	未審査（※2）
人を対象とする生命科学･医学系研究に関する倫理指針（※3）	■　□	■	国立循環器病研究センター	□
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	□　■	□		□
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	□　■	□		□
その他、該当する倫理指針があれば記入すること（指針の名称：　　）	□　■	□		□

（※1）当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他（特記事項）

（※2）未審査に場合は、その理由を記載すること。
（※3）廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

５．厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 ■　未受講 □

６．利益相反の管理

当研究機関におけるＣＯＩの管理に関する規定の策定	有 ■　無 □（無の場合はその理由：　　）
当研究機関におけるＣＯＩ委員会設置の有無	有 ■　無 □（無の場合は委託先機関：　　）
当研究に係るＣＯＩについての報告・審査の有無	有 ■　無 □（無の場合はその理由：　　）
当研究に係るＣＯＩについての指導・管理の有無	有 □　無 ■（有の場合はその内容：　　）

（留意事項）　・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

令和７年　５月　２０日

厚生労働大臣
~~（国立医薬品食品衛生研究所長）~~ 殿
~~（国立保健医療科学院長）~~

機関名　国立研究開発法人
国立循環器病研究センター
所属研究機関長　職　名　理事長

氏　名　大津　欣也

次の職員の（令和）６年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

１．研究事業名　循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業

２．研究課題名　脳卒中後の失語・嚥下障害・てんかん・認知症の実態調査と脳卒中生存者に対するチーム医療の確立を目指した研究

３．研究者名　（所属部署・職名）　脳神経内科　　医長

（氏名・フリガナ）　齊藤　聡　　（サイトウ　サトシ）

４．倫理審査の状況

	該当性の有無	左記で該当がある場合のみ記入（※1）		
	有　無	審査済み	審査した機関	未審査（※2）
人を対象とする生命科学･医学系研究に関する倫理指針（※3）	■　□	■	国立循環器病研究センター	□
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	□　■	□		□
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	□　■	□		□
その他、該当する倫理指針があれば記入すること（指針の名称：　　）	□　■	□		□

（※1）当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他（特記事項）

（※2）未審査に場合は、その理由を記載すること。
（※3）廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

５．厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 ■　未受講 □

６．利益相反の管理

当研究機関におけるＣＯＩの管理に関する規定の策定	有 ■　無 □（無の場合はその理由：　　）
当研究機関におけるＣＯＩ委員会設置の有無	有 ■　無 □（無の場合は委託先機関：　　）
当研究に係るＣＯＩについての報告・審査の有無	有 ■　無 □（無の場合はその理由：　　）
当研究に係るＣＯＩについての指導・管理の有無	有 □　無 ■（有の場合はその内容：　　）

（留意事項）　・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

令和７年　５月　２０日

厚生労働大臣
~~（国立医薬品食品衛生研究所長）~~ 殿
~~（国立保健医療科学院長）~~

機関名　国立研究開発法人
国立循環器病研究センター
所属研究機関長　職　名　理事長

氏　名　大津　欣也

次の職員の（令和）６年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

１．研究事業名　循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業

２．研究課題名　脳卒中後の失語・嚥下障害・てんかん・認知症の実態調査と脳卒中生存者に対するチーム医療の確立を目指した研究

３．研究者名　（所属部署・職名）　予防医学・疫学情報部　部長

（氏名・フリガナ）　西村　邦宏　（ニシムラ　クニヒロ）

４．倫理審査の状況

	該当性の有無	左記で該当がある場合のみ記入（※1）		
	有　無	審査済み	審査した機関	未審査（※2）
人を対象とする生命科学･医学系研究に関する倫理指針（※3）	■　□	■	国立循環器病研究センター	□
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	□　■	□		□
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	□　■	□		□
その他、該当する倫理指針があれば記入すること（指針の名称：　　）	□　■	□		□

（※1）当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他（特記事項）

（※2）未審査に場合は、その理由を記載すること。
（※3）廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

５．厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 ■　未受講 □

６．利益相反の管理

当研究機関におけるＣＯＩの管理に関する規定の策定	有 ■　無 □（無の場合はその理由：　　）
当研究機関におけるＣＯＩ委員会設置の有無	有 ■　無 □（無の場合は委託先機関：　　）
当研究に係るＣＯＩについての報告・審査の有無	有 ■　無 □（無の場合はその理由：　　）
当研究に係るＣＯＩについての指導・管理の有無	有 □　無 ■（有の場合はその内容：　　）

（留意事項）　・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

令和７年　５月　２０日

厚生労働大臣
~~（国立医薬品食品衛生研究所長）~~ 殿
~~（国立保健医療科学院長）~~

機関名　国立研究開発法人
国立循環器病研究センター
所属研究機関長　職　名　理事長

氏　名　大津　欣也

次の職員の（令和）６年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

１．研究事業名　循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業

２．研究課題名　脳卒中後の失語・嚥下障害・てんかん・認知症の実態調査と脳卒中生存者に対するチーム医療の確立を目指した研究

３．研究者名　（所属部署・職名）　脳血管リハビリテーション科　医長

（氏名・フリガナ）　横田　千晶　（ヨコタ　チアキ）

４．倫理審査の状況

	該当性の有無	左記で該当がある場合のみ記入（※1）		
	有　無	審査済み	審査した機関	未審査（※2）
人を対象とする生命科学･医学系研究に関する倫理指針（※3）	■　□	■	国立循環器病研究センター	□
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	□　■	□		□
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	□　■	□		□
その他、該当する倫理指針があれば記入すること（指針の名称：　　）	□　■	□		□

（※1）当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他（特記事項）

（※2）未審査に場合は、その理由を記載すること。
（※3）廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

５．厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 ■　未受講 □

６．利益相反の管理

当研究機関におけるＣＯＩの管理に関する規定の策定	有 ■　無 □（無の場合はその理由：　　）
当研究機関におけるＣＯＩ委員会設置の有無	有 ■　無 □（無の場合は委託先機関：　　）
当研究に係るＣＯＩについての報告・審査の有無	有 ■　無 □（無の場合はその理由：　　）
当研究に係るＣＯＩについての指導・管理の有無	有 □　無 ■（有の場合はその内容：　　）

（留意事項）　・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

令和７年　５月　２０日

厚生労働大臣
~~（国立医薬品食品衛生研究所長）~~ 殿
~~（国立保健医療科学院長）~~

機関名　国立研究開発法人
国立循環器病研究センター
所属研究機関長　職　名　理事長

氏　名　大津　欣也

次の職員の（令和）６年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

１．研究事業名　循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業

２．研究課題名　脳卒中後の失語・嚥下障害・てんかん・認知症の実態調査と脳卒中生存者に対するチーム医療の確立を目指した研究

３．研究者名　（所属部署・職名）　脳血管内科　　部長

（氏名・フリガナ）　古賀　政利　（コガ　マサトシ）

４．倫理審査の状況

	該当性の有無	左記で該当がある場合のみ記入（※1）		
	有　無	審査済み	審査した機関	未審査（※2）
人を対象とする生命科学･医学系研究に関する倫理指針（※3）	■　□	■	国立循環器病研究センター	□
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	□　■	□		□
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	□　■	□		□
その他、該当する倫理指針があれば記入すること（指針の名称：　　）	□　■	□		□

（※1）当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他（特記事項）

（※2）未審査に場合は、その理由を記載すること。
（※3）廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

５．厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 ■　未受講 □

６．利益相反の管理

当研究機関におけるＣＯＩの管理に関する規定の策定	有 ■　無 □（無の場合はその理由：　　）
当研究機関におけるＣＯＩ委員会設置の有無	有 ■　無 □（無の場合は委託先機関：　　）
当研究に係るＣＯＩについての報告・審査の有無	有 ■　無 □（無の場合はその理由：　　）
当研究に係るＣＯＩについての指導・管理の有無	有 □　無 ■（有の場合はその内容：　　）

（留意事項）　・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

令和７年　５月　２０日

厚生労働大臣
~~（国立医薬品食品衛生研究所長）~~ 殿
~~（国立保健医療科学院長）~~

機関名　国立研究開発法人
国立循環器病研究センター
所属研究機関長　職　名　理事長

氏　名　大津　欣也

次の職員の（令和）６年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

１．研究事業名　循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業

２．研究課題名　脳卒中後の失語・嚥下障害・てんかん・認知症の実態調査と脳卒中生存者に対するチーム医療の確立を目指した研究

３．研究者名　（所属部署・職名）　予防医学・疫学情報部　研究員

（氏名・フリガナ）　中奥　由里子　（ナカオク　ユリコ）

４．倫理審査の状況

	該当性の有無	左記で該当がある場合のみ記入（※1）		
	有　無	審査済み	審査した機関	未審査（※2）
人を対象とする生命科学･医学系研究に関する倫理指針（※3）	■　□	■	国立循環器病研究センター	□
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	□　■	□		□
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	□　■	□		□
その他、該当する倫理指針があれば記入すること（指針の名称：　　）	□　■	□		□

（※1）当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他（特記事項）

（※2）未審査に場合は、その理由を記載すること。
（※3）廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

５．厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 ■　未受講 □

６．利益相反の管理

当研究機関におけるＣＯＩの管理に関する規定の策定	有 ■　無 □（無の場合はその理由：　　）
当研究機関におけるＣＯＩ委員会設置の有無	有 ■　無 □（無の場合は委託先機関：　　）
当研究に係るＣＯＩについての報告・審査の有無	有 ■　無 □（無の場合はその理由：　　）
当研究に係るＣＯＩについての指導・管理の有無	有 □　無 ■（有の場合はその内容：　　）

（留意事項）　・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

令和　7　年　4　月　8　日

厚生労働大臣
~~（国立医薬品食品衛生研究所長）~~ 殿
~~（国立保健医療科学院長）~~

機関名　社会医療法人大道会　森之宮病院

所属研究機関長　職　名　理事長

氏　名　大道　道大

次の職員の（令和）６年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

１．研究事業名　循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業

２．研究課題名　脳卒中後の失語・嚥下障害・てんかん・認知症の実態調査と脳卒中生存者に対するチーム医療の確立を目指した研究

３．研究者名　（所属部署・職名）　神経リハビリテーション研究部・院長

（氏名・フリガナ）　宮井 一郎・ミヤイ イチロウ

４．倫理審査の状況

	該当性の有無	左記で該当がある場合のみ記入（※1）		
	有　無	審査済み	審査した機関	未審査（※2）
人を対象とする生命科学･医学系研究に関する倫理指針（※3）	■　□	■	大道会森之宮病院	□
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	□　■	□		□
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	□　■	□		□
その他、該当する倫理指針があれば記入すること（指針の名称：　　）	□　■	□		□

（※1）当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他（特記事項）

（※2）未審査に場合は、その理由を記載すること。
（※3）廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

５．厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 ■　未受講 □

６．利益相反の管理

当研究機関におけるＣＯＩの管理に関する規定の策定	有 ■　無 □（無の場合はその理由：　　）
当研究機関におけるＣＯＩ委員会設置の有無	有 ■　無 □（無の場合は委託先機関：　　）
当研究に係るＣＯＩについての報告・審査の有無	有 ■　無 □（無の場合はその理由：　　）
当研究に係るＣＯＩについての指導・管理の有無	有 □　無 ■（有の場合はその内容：　　）

（留意事項）　・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

令和７年３月１８日

厚生労働大臣　殿

機関名　北海道大学

所属研究機関長　職　名　総長

氏　名　寶金　清博

次の職員の令和６年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

１．研究事業名　循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業

２．研究課題名　脳卒中後の失語・嚥下障害・てんかん・認知症の実態調査と脳卒中生存者に対するチーム医療の確立を目指した研究

３．研究者名　（所属部署・職名）　保健科学研究院　基盤看護学分野　准教授

（氏名・フリガナ）　大槻　美佳　オオツキ　ミカ

４．倫理審査の状況

	該当性の有無	左記で該当がある場合のみ記入（※1）		
	有　無	審査済み	審査した機関	未審査（※2）
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針（※3）	□　■	□		□
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	□　■	□		□
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	□　■	□		□
その他、該当する倫理指針があれば記入すること（指針の名称：　）	□　■	□		□

（※1）当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他（特記事項）

（※2）未審査に場合は、その理由を記載すること。

（※3）廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

５．厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 ■　未受講 □

６．利益相反の管理

当研究機関におけるＣＯＩの管理に関する規定の策定	有 ■　無 □（無の場合はその理由：　）
当研究機関におけるＣＯＩ委員会設置の有無	有 ■　無 □（無の場合は委託先機関：　）
当研究に係るＣＯＩについての報告・審査の有無	有 ■　無 □（無の場合はその理由：　）
当研究に係るＣＯＩについての指導・管理の有無	有 □　無 ■（有の場合はその内容：　）

（留意事項）　・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。